令和5年度東京都高体連テニス専門部

審判必携

東京都高等学校体育連盟テニス専門部

生徒審判の役割

1、事前準備

① 担当試合の確認 （コートの場所・ラウンド・試合形式・選手名・学校名）
② コート・道具の準備
・審判セットに不備はないかを確認
・ネットが正しく張られているかを確認 （センターの高さは 91.4cm ）
※シングルスの場合はスティックを立てる
・ボールの缶を開けて、ボールの点検をする
・コート内に不要なゴミ、ボールがないか点検する
・スコア・ボードにネームプレートを**ドロー番号の小さい方**を上にして掛ける
※前の試合のスコアを0（ゼロ）に戻す。（第１セットの欄（左側）に「0」「0」を表示する。）
③ 選手の確認
・ドロー番号の小さい選手の背中に赤いリボンをつける

2、試合開始前

① 団体戦開始の挨拶（団体のみ） ・・・詳細は後述
② プレマッチミーティング（個人・団体とも） ・・・詳細は後述
③ ウォームアップ時のタイム計測・選手紹介 ・・・詳細は後述

3、試合中

① スコアのコール・ジャッジペーパーの記入
② ポイント間（25秒）・チェンジエンド時（90秒）・セット間（120秒）の時間計測
③ ボール進入時のウェイトもしくはポイントレットのコール
④ フットフォルトのコール
⑤ アクシデント時に帽子を振り、CR を呼び出す

4、試合後

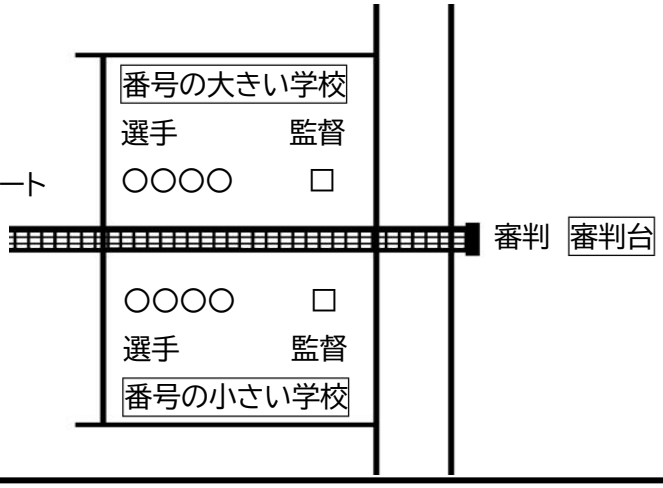
① 試合終了のアナウンスをし、スコアボードの表示を確認（個人・団体とも）
② 勝者から審判用紙にサインをもらい、CR からも確認サインをもらう
③ 勝敗が決定したコートで団体戦終了の挨拶をする（団体のみ） ・・・詳細は後述
④ 審判セット・ボール・リボン・ネームプレートを競技進行本部に戻す

場面ごとの挨拶文

1、団体戦の挨拶（開始）

ドロー番号の小さいチームが審判台左側のコートに入りサービスラインに審判台の方から
監督・選手（登録順）の順に整列する。

●挨拶はダブルスの試合をするコートで行う
●ダブルス担当の審判が挨拶を行う
●右の図のように選手・監督・審判は整列する
※番号の小さい学校が審判台から見て左側のコート



①「試合前の挨拶を行います。サービスラインにお並びください。」

②「男子（女子1回戦（〇回戦・準々決勝・準決勝・決勝）☆高校と★高校の試合を行います。」

③「礼。」

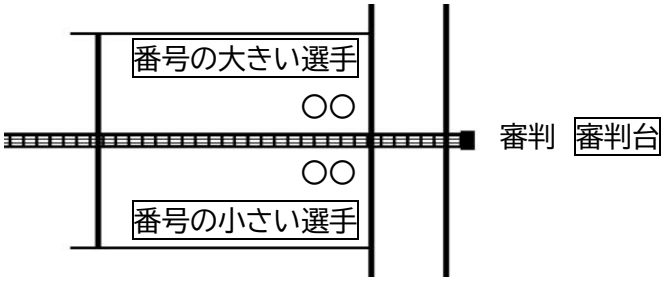
④「ネットの前までお進みください。監督の先生またはチームのキャプテンはオーダー用紙の交換をお願いします。」

⑤「〇〇高校、監督の先生またはチームのキャプテンよりダブルス・シングルス1・シングルス2の順に選手の紹介をお願いします。」
※ドロー番号の小さい学校より紹介する。

⑥「ありがとうございました。引き続きダブルスの試合から行いますので、選手は準備をしてコートに入ってください」
※2 面展開、3 面展開の場合は、各試合がどのコートで行われるかも伝える

⑦「これで、試合前の挨拶を終わります。 礼！ 」

2、個々の試合のプレマッチミーティング



①「ネットを挟んでお集まりください。」

②「☆☆高校のAさんですか？（ダブルスの場合はペアも確認し「Bさんですね？」）」
※名前と顔が一致するように特徴を審判用紙に記入すると間違えにくい

③「★★高校のCさんですか？（ダブルスの場合はペアも確認し「D さんですね？」）」

④「主審は〇〇高校の□□です。よろしくお願いします。」

⑤「☆☆高校と★★高校のシングルス（ダブルス）の試合を行います。
この試合は1セットマッチ（8ゲームプロセットマッチ）です。」

⑥「ウォームアップは3分間です。何か質問はありますか？」

⑦「トスを行います。（コイントスの場合は、HEAD or TAIL）」
ドロー番号の小さい選手に選択させ、コインを回転させながら空中に投げ、地面に落とす。
投げたコインは空中でつかんではいけない。コインをコート上においたまま選手にコインの向きを確認させる。

⑧「（トスに勝った選手に）何を選びますか？」
A、サーバーかレシーバーか　B、エンド（コート）　C、相手に①②のどちらかを選ばせる

⑨「試合は★★高校のサービスで始めます。」

⑩「ウォームアップは3分間です。サービスより練習してください。」と言ってから審判台に乗る

⑪「スリーミニッツ フォ ウォームアップ（Three minutes for warm up.）」
※選手がボールを打ち始めてからストップウォッチで時間を計り始める。

⑫「ツーミニッツ（Two minutes.）」→「ワンミニット（One minute.）」

⑬「ただいまより関東高等学校テニス選手権大会男子（女子）団体戦（個人戦）1回戦シングルス（ダブルス）の試合を行います。試合は1セットマッチ（8ゲームプロセットマッチ）で行われます。審判台から見て右側☆☆高校A選手（・B選手）、左側★★高校C選手（・D選手）です。トスの結果A選手（・B選手）がサービスとなりました。」

⑭「エンド オブ ウォームアップ」
※アップ終了後、選手がベンチで準備する時間を 60秒以内 で認める。
※残り15秒程度でも選手がベンチにいるときは声をかけて移動を促す。

3、試合中のアナウンス

① 試合開始･･･サーバーが松岡選手の場合

1セットマッチの場合

「1セットマッチ　〇〇　トゥ　サーブ　プレイ」

8ゲームプロセットマッチの場合

「8ゲームプロセットマッチ　〇〇 トゥ サーブ プレイ」

※「〇〇」の部分は、団体戦では学校名、個人戦では選手名でアナウンスする
　ただし、「〇〇高校」の「高校」は省略してもよい

② アドバンテージ時のアナウンス

「アドバンテージ　〇〇」

団体戦では、学校名、個人戦では選手名でアナウンスする
個人戦ダブルスではサーバーもしくはアドバンテージサイドの選手の名前を言う

③ ゲームを取った時のアナウンス

1ゲーム終了時

「ゲーム 〇〇(ダブルスでは「〇〇・□□」以下省略) ファースト ゲーム　△△ トゥ サーブ」

※アナウンスの手順は「ゲーム」→「取った方の名(学校名)」→「スコア」
※ゲームカウントのアナウンスはそのゲームを取得したポイントの後に直ちに言う。次のゲームの
　サーバーがポジションにつく時ではない
※個人戦ダブルスでのゲーム終了時には、両選手の名前をコールする

2ゲーム終了以降

「ゲーム 〇〇 1－1(ワン オール)」
「ゲーム 〇〇 、 〇〇 リーズ 2－0(ツー ラブ)」

※エンドチェンジの時間は 90 秒以内。60 秒経過で「タイム！」
　75 秒経過でポジションについていない場合「フィフティーン・セカンズ」とアナウンスする。

④ タイブレーク前のアナウンス

「ゲーム 〇〇　6(8)オールタイブレーク」

⑤ タイブレーク時のアナウンス

「1－0(ワン・ゼロ)〇〇」　「1－1（ワン・オール)」
「4－1(フォー・ワン)〇〇」　「4－3（フォー・スリー)〇〇」

※タイブレーク中のスコアは、最初にスコアをアナウンスし(大きい数字を先に)、
次にリードしている選手(学校)をアナウンスする。
※タイブレーク中の「0」は、「ラブ」ではなく「ゼロ」とアナウンスする。

⑥ セット終了時のアナウンス(3セットの場合)

「ゲーム アンド ファースト セット 〇〇 7－6(セブン・シックス)」
(セカンドセット開始直前)「セカンド セット」
「ゲーム アンド セカンド セット △△ 6－4(シックス・フォー)
ワンセット オール」
ファイナル セット開始直前)「ファイナルセット」

⑦ 試合終了のアナウンス

（〇〇選手が8ゲームプロセットの試合でタイブレークの末に勝利した場合）

「ゲーム セット アンド マッチ 〇〇、9－8(ナイン・エイト)」

◇(〇〇選手がセットカウント 2-1 で勝利。ゲームカウントは6-7、6-4、6-0)

「ゲーム セット アンド マッチ 〇〇、ツー セッツ トゥ ワン。6－7、
6－4、6－0(シックス・セブン、シックス・フォー、シックス・ラブ)」

4、団体戦の挨拶(終了)

※ポイント決定コートの主審が担当
勝者にサインをもらった後、コートレフェリーに他のコートの結果を確認し、団体戦のポイントをまとめる。
以下、審判用紙を見て、次のように行う。

①「〇番コートのサービスラインにお並びください。」

②「ネットの前までお進みください。」

③「ただ今の☆☆高校と★★高校の試合は、2－1(3－0)で☆☆高校の勝ちです。」

④「両校で礼をした後、解散してください。」

⑤「両校、礼」

審判員の注意事項(試合中)

1、コールとスコアアナウンス

① ポイントが終わったら、直ちに大きな声で行う
※審判の動作は次の手順で行う
選手のジャッジ後 ①ストップウォッチ → ②カウントアナウンス → ③スコア記入

② 際どいボールの選手の判定は、アウトのコールまたはフォルトのハンドシグナル、グッド(イン)の
ハンドシグナル(片手)をし、両選手のサポートする。

2、時間管理

① ポイントとポイントの間のインターバルは25秒。25秒を過ぎてもプレイしないときは、
「レッツ・プレイ(Let's play.)」と声を掛け、プレイ続行を促す。

② エンド(サイド)交代の時間は、前のゲームの最終ポイントが終了した瞬間に、ストップウォッチを
作動させ90秒計る。60秒経過した時、「タイム(Time.)」とアナウンスする。
75秒経過してもベンチにいたら「フィフティーン・セカンズ」とアナウンスする。
※タイブレーク中は、ノーレスト(休憩無し)。エンド交代は25秒以内に行わせる。

③ セットブレイクは120秒である。

3、クレームに対する処置

① **事実問題(アウトかインか ネットに触れたか触れないか 等々)**についての、最終判定者は
主審であることから、主審は事実問題をしっかり確認する
※選手・監督には**事実問題の紛争**に関して、「レフェリーを呼べ」という権利はない

② コート上で起こったルールの法的解釈の問題に関しては、コートレフェリーにその裁定を求める
※**コートレフェリーを呼びたいときは、帽子を脱ぎ合図を送る**
※正当なクレーム(事実問題を除く)が出た場合にはストップウォッチをいったん止め、
そのクレームを処置し、もう一度正式な判定とポイントをコールした後、
「レッツ・プレイ (Let's play.)」と言い、ストップウォッチで25秒を計る
それでもプレイを再開しないときはコートレフェリーを呼んで処置してもらう

③ 主審は抗議に対して「・・・と思う。」ではなく、毅然とした態度で「・・・です!」と言うように
明確な表現で答えることが大事である

4、メディカルタイムアウト(MTO)

MTO は採用しない。痙攣・怪我の発生時は速やかに帽子を振り、CR を呼ぶ

審判員の注意事項(その他)

1、時間管理について補足

25 秒 :ポイントとポイントの間は 25 秒以内とする

90 秒 :エンドの交代は 90 秒以内とする。奇数ゲームが終了した時点で、ストップウォッチで計る
※60 秒経過したら「タイム！」とアナウンスし、75 秒経過しても選手がコートに入っていない場合は、「フィフティーン・セカンズ」とアナウンスする

120 秒 :セットとセットの間は120秒以内とする

① 主審はストップウォッチを首からかけ、ポイント、ゲームの終了とともに計時する。
② 選手からの抗議には、再度自分が下した判定をアナウンスする。それでも選手がプレイしない場合は「レッツ・プレイ！」とアナウンスする。
※その後も 25 秒以内にプレイしない場合は、帽子を振ってコートレフェリーを呼ぶ。
③ 疲労回復などのためにスローペースでプレイをする選手がいれば、25 秒・90 秒を確実に計時し、時間以内にプレイをしない場合は、「タイム！」とアナウンスする。
※それでもプレイしない、または同じことを繰り返した場合、帽子を振ってコートレフェリーを呼び、コートレフェリーの指示に従って「タイム・バイオレーション」をアナウンスする。
●アナウンスは「タイム・バイオレーション。ウォーニング、 ○○選手」(＝警告)
●2回目以降は「タイム・バイオレーション。ポイント・ペナルティー、 ○○選手、(新しいスコアのアナウンス)」(＝ペナルティーとしてアナウンスのたびに1ポイントを失う。)
●場合によってはコード・バイオレーションに移行することがある。
④ タイブレークのエンドチェンジではベンチに座ってはいけない。
●ただし、汗を拭いたり、水分を補給することは可能である。
⑤ 試合開始と終了の時刻をスコアカードに記入する。

2、スコアカードの記入について

コートに入る前
① 「審判の氏名と高校名」、「コートレフェリー名」、「試合形式」を記入しておく。

プレマッチミーティング時
① 選手の名前を確認する際、選手の特徴(ウェアの色、背の高低など)をスコアカードの氏名欄にメモしておくと便利である。
② コイントスの後、以下の項目を記入する。
※コイントスの勝者にチェック(✓)を入れる。
※「サーバーサイド」および「タイブレーク」の欄はその試合のエンド通りに選手名を記入する。

試合開始後
① 試合開始時刻を記入する。
② ポイントは斜線「／」で表す。サーバーがポイントを取ればゲーム欄の上段に、レシーバーがポイントを取れば下段に記入する。
●「C」はコード・バイオレーション。(ポイントを取った方は×、コード・バイオレーションを取られた方にC。)

●「T」はタイム・バイオレーション。(ポイントを取った方は×、タイム・バイオレーションを取られた方にT。)

③ ゲームスコアは「スコア」欄に、前のゲームを累積して記入する。

④ デュースが続き、ゲーム欄に記入しきれない場合は、下の「Additional advantage points」欄にサーバー名と、第何ゲームかを記入した上で、続きを記入する。

⑤ タイブレークは、斜線ではなく、数字を記入していく。

●「C」・「T」の記号はバイオレーションを取られた方に記入する。

⑥ エンドチェンジの時間を利用して、ポイントの記入もれ等のミスがないかチェックしておく。

試合終了後

① 「勝者サイン」欄上のゲームスコア記入欄に記入する。

●タイブレークは、7－4だったら(4)と小さくポイントを記入する。

② 試合終了時刻を記入する。

③ 勝者にサインをもらう。

④ コートレフェリーにスコアカードの確認後サインしてもらう。

3、コートレフェリーを呼ぶケースと、ソフト・ウォーニングの事例

コートレフェリーを呼ぶ場合は、帽子を振ってコートレフェリーを呼び、内容を説明する。

コートレフェリーを呼ぶケース

① 選手、ベンチコーチ、観客のコード・バイオレーション(悪質な態度など)などを発見した場合

●「コード・バイオレーション」にあたる行為は以下のものである

・不当な遅延行為
　「レッツ・プレイ！」の指示から 25 秒以内に試合を開始しない
　メディカルタイムアウトによる中断後、30 秒以内に試合を再開しない
　疲労や体力消耗によって、試合が続行できない
・声やしぐさによる卑猥な表現
・コーチング(選手の携帯電話が鳴った場合もこれに該当する)
・ボール・ラケットまたは用具の乱用
・言葉での侮辱
・身体に対する危害
・その他、スポーツマンらしくない行為
　(相手側コートのボールマークを調べようとして相手方コートに行くなどの行為も含む)

●コートレフェリーからアナウンスを指示されたら、「コード・バイオレーション、 ラケットの乱用、ウォーニング、 ○○選手」のように行う

●コートレフェリーが直接ペナルティーを科することもある

② 選手がケガ・体調不良やけいれんを起こした場合

③ 選手がトイレットブレークを要求してきた場合

④ ボールが、コート外に出て、探したが見当たらない場合

⑤ 法的問題(ルールの解釈)について、主審の判定にプレイヤーがクレームを付けてきた場合

⑥ その他、突発的な出来事や困った事態になった場合

ソフト・ウォーニングの事例

●次のような場面を見た場合、「ソフト・ウォーニング」によって事態を収拾するように努める

●いずれのケースでも、ソフト・ウォーニングを伝えた後は、その内容をコートレフェリーを呼んで報告すること

① インプレイ中に選手に向かって監督がアドバイスしている。
審判「インプレイ中のアドバイスはお控えください。」
「アドバイスはエンドチェンジの時のみにしてください。」

② 監督がエキサイトして大声を出したり、派手なガッツポーズをとったり、立ち上がったりしている。
審判「お静かにねがいます。」
「エンドチェンジの時以外は立ち上がらないでください。」

③ 監督がベンチをはさんで両方のコートの選手を応援している。
審判「応援はこちらのコートのみにしてください。」

④ エンドチェンジの際、ボールパーソンが選手をあおいであげている。
審判「ボールパーソンはネット付近にいてください。」

⑤ 選手が審判に暴言を吐いた。
審判「次に暴言を吐いたら、コード・バイオレーションになります。」
→帽子を振って、ただちにコートレフェリーを呼ぶ。

⑥ 著しくマナーに反する応援を行う観客がいる。
審判「静かにして下さい。」

4、団体戦における選手変更の申し出

団体戦の勝敗ポイント決定後からトスが行われるまでに選手変更の申し出があった場合は

【審判】・・・・・・・・・・・・・コートレフェリーを呼び、処理してもらう。

【コートレフェリー（教員）】・・・・両校の同意が得られたときは、選手変更を確認し、
トランシーバーで競技進行本部に伝える。

補足:知っておきたいテニスルール

(1)パーマネント・フィクスチュア

●「パーマネント・フィクスチュア」とは「コートの周りにある全ての施設、設備、審判、線審、ボールパーソンのこと」をいい、シングルス時にはシングルス・スティック外側のネットポストやネットもパーマネント・フィクスチュアとみなされる。

Q1:インプレイ中のボールを地面に落ちる前に、ボールパーソンや線審がうっかりつかんだ場合は？
A1:ボールを打った者の失点になる。

Q2:シングルス・スティックを立ててシングルスを行っているとき、ラリー中のボールがダブルス用ポストに触れて相手方のコートに入った場合は？
A2:シングルス・スティックの外側はパーマネント・フィクスチュアであり、バウンド前にパーマネント・フィクスチュアに当たった場合は失点となる。

Q3:シングルスを行っているとき、シングルス・スティックとダブルス用ポストとの間にあるネットに、インプレイ中のプレイヤーが触れた場合は失点になるか？
A3:パーマネント・フィクスチュアにプレイヤー自身が触れても、失点にはならない。

(2)ボール

Q1:インプレイ中にボールが破れた場合は？
A1:そのポイントをやり直す。

Q2:ポイントが終わったとき、ボールが軟かくなっていたら、そのポイントはやり直すか？
A2:ボールが破れたのではなく、単なる軟化の場合、ポイントはやり直さない。

(3)ラケット、ストリング

Q1:ラリー中にストリングが切れた場合は？
A1:そのポイントはそのままでプレイしなければならないが、ポイント終了後ただちに正規のラケットに交換する。持っているラケットのストリングが全部切れた場合、プレイヤーはコートレフェリーの許可を得て、第三者にラケットの補充を頼むか、プレイヤー自身がコートを離れることができるが、いずれの場合も次のポイントが始まるまでの時間内(20 秒または 90 秒)で用意しなければならない。時間内に再開できない場合はコード・バイオレーションの対象となる。

(4)サービス、サーバー

Q1:ダブルスで、サーバーのパートナーに当たったサービスの扱いは？
A1:フォルトとなる。

Q2:ファーストサービスの打球時に、サーバーのストリングが切れ、そのサービスがフォルトの場合は？
A2:切れたままセカンドサービスを打っても、ラケットを交換してセカンドサービスを打ってもよい。

Q3:サービスがシングルス・スティックにあたったあと、正しいサービスコートに落ちた場合は？
A3:地面に落ちる前にパーマネント・フィクスチュアやシングルス・スティックまたはネットポストに触れた場合

はフォルトとなる。

Q4:ファーストサービスがネットにあたったはずみでシングルス・スティックが倒れた場合は？
A4:ポイント・レットになる。スティックを立て直して、ファーストサービスからやり直す。センターストラップの止め金がはずれた場合なども同じである。

Q5:サーバーが誤ったサイドからサーブするのが発見された場合はどうするか？
A5:ただちに誤りを訂正し、スコアに応じた正しいサイドからサーブする。誤りが発見される前にフォールトしたサービスは成立する。

Q6:サーバーの順序が間違っていることに気づいた場合はどうするか？
A6:気づきしだい、本来のサーバーに代わる。気づいたときに、すでにゲームが終了していた場合は、入れ替わったままの順番で行う。

Q7:タイブレーク中にサーバーの順序が間違っていることに気づいた場合はどうするか？
A7:偶数ポイント終了時に気づけば正しい順番に戻し、奇数ポイント終了時に気づけば順番が入れ代わったままプレイを続ける。

(5)レシーブ、レシーバー

Q1:ファーストサービスがフォルトになった時にレシーバーのストリングが切れた場合は？
A1:レシーバーはラケットを換えないでそのままそのポイントをプレイしてもよいし、すぐラケットをかえてもよい。ただし、レシーバーがラケットを換えた場合は、ポイント・レットとなり、ファーストサービスが与えられる。

Q2:ネットに触れて飛んできたサービスのボールを、レシーバーが思わずノーバウンドでつかんでしまった場合は？
A2:サービス・レットとなり、そのサービスをやり直す。

Q3:ダブルスでサーブしたボールが、地面に落ちる前にレシーバーのパートナーに当たった場合は？
A3:ボールを当てられたプレーヤー(チーム)の失点となる。

Q4:レシーバーがいったん構えた後、サーバーがセカンドサービスを打つ寸前に、レシーバーが手を上げて「ノットレディ」を知らせたが、サーバーが気づかずにサーブを打ってしまった場合は？
A4:ファーストサービスからやり直す。

Q5:ダブルスのゲームの途中で、レシーブの位置を間違えていることに気づいた場合は？
A5:そのゲームはそのままの位置でレシーブを行い、次のレシーブ・ゲームで本来の順番に戻す。

(6)プレイヤーの失点と有効返球

Q1:届かないと思って投げたラケットにボールが当たり、相手コートに入った場合は失点になるか？
A1:手から離れたラケットにボールが当たった場合は失点である。

Q2:プレイヤーが、ネットの仮想延長線を越えて相手側に入り込んだ場合は失点になるか？
A2:相手コートに入らない限り、返球の前後に関わらず失点にはならない。

Q3:ラリー中にシングルス・スティックにあたったあと、正しくコートに入っても失点になるか？
A3:ならない。有効返球である。（ただし、サービスの場合はフォルトとなる。）

Q4:ボールがバウンドした後、逆回転がかかって（風に戻されて）ネットを越えて相手側に戻ったので、ネットを越えて返球した場合は失点になるか？
A4:ならない。有効返球である。

Q5:ネットの自分側で打った後、ボールは正しく返球されたが、自分のラケットがネットを越えて相手側に突き出た場合は失点になるか？
A5:ならない。有効返球である。

（7）妨害

Q1:インプレイ中、隣のコートのプレイヤーが勢いあまって自分たちのコートへ走りこんできて、自分たちのプレイが妨害を受けた。この場合、レットとしてポイントのやり直しはできるか？
A1:できる。

Q2:インプレイ中のボールが、空中で他のボールと当たった。この場合、レットとしてポイントのやり直しはできるか？
A2:できる。

Q3:ポイントが始まったとき、すでにコート上に転がっていたボール、または他の物体がプレイ中に邪魔になった。この場合、レットとしてポイントのやり直しはできるか？
A3:妨害ではないので、やり直しはできない。

（8）誤りの訂正

Q1:誤りが発見されたときは、誤りに気づくまでに行われたポイントは、どうなるか？
A1:原則として、誤りに気づくまでに行われたポイントは有効である。

Q2:プレイヤーが誤ったエンドにいることが発見された場合はどうするか？
A2:ただちに誤りを訂正し、スコアに応じた正しいエンドからサーブする。

（9）コーチング

Q1:団体戦では、タイブレークのエンドチェンジの時でも、コーチングを受けることができるか？
A1:できない。

（10）その他

Q1:試合中に選手が、シューズの交換を申し出てきた場合はどうするか？
A1:「汗で湿ったシューズを取り替えたい」ときは、1試合に1回に限り、エンドチェンジ時にコート内に予備のシューズやソックスが用意されていれば履き替えるための時間延長が認められる。「シューズがすべる」などの理由でコートを離れることはできないが、破損した場合は、「用具の不具合」として、会場内に予備の用具がある場合に限り、理にかなった時間内で取りに行くことができる。

こんな時どうする？

●ルールブックに載っている事例以外にも、様々なケースが考えられます。
リハーサル大会中に審判員から寄せられた質問や、過去の大会での事例を集めました。

(1)コール

Q1:ダブルスでポーチに出た選手のラケットが、かすかにボールにあたり、「プチッ」と音がしたが、
他の3人は気づかずプレイを続行しようとした。この際、どういうコールをすればいいのか？
A1:「タッチ」とコールする。

Q2:ボール侵入時の「ウェイト」と「レット」の違いは？
A2:「レット」とは「やり直し」という意味で、ファーストサービスをフォルトし、セカンドサービスを打つ動作に入る直前にボールの侵入があった場合は、そのポイントをファーストサービスからやり直す。ファーストサービスを打つ前であれば、単なる「ウェイト」で「タイム」ではない。テニスにおいての「タイム」は「時間になりました。プレイを始めて下さい。」という意味で、「外部からボールが侵入した」、「審判がスコアシートを記入している」、「線審が、まだ定位置に戻っていない」などといった状況に気づかずに選手がプレイを始めようとした場合は、「ウェイト、プリーズ」とコールする。もちろん「待ってください」でも構わない。

Q3:学校では、ラリー中はずっと、「イン」のハンドシグナルをし続けなさい、と指導されたが？
A3:必要ない。「イン」のシグナルはラインから1m程度の時だけである。明らかに「イン」のボールに対して、いちいちハンドシグナルを出す必要はない。「ナイスショット」と感じたら出すでもいいかもしれない。

(2)判定

Q1:スコアを記入しているうちに選手がプレイを始めてしまい、全くボールの行方を見届けていないショットに関して「イン」か「アウト」かを、問いつめられたのだが？
A1:審判に認識できないプレイはすべて存在していないと同然で、ポイント・レットとなる。ただし、この場合はスコアをより早く記入する努力をすべきである。しかし、記入を焦るあまりポイント成立後すぐに用紙に目を落とすのは良くない。判定を確認するために、失点した選手が審判に視線を向けることがよくあるが、選手と目をあわせてうなずくだけでも、信頼されるようになる。

Q2:線審をしていて、目の前のベースラインで、ボールは確かに「アウト」に見えた。しかし、審判は「イン」と判断し選手の激しいクレームを受けている。この場合、線審の立場で審判に対して、「今のボールは確かにアウトだった」などと助言はできるか？　また、審判がその助言を聞き入れて、判定を覆すことはできるか？
A2:できない。線審は、本来見るべきライン以外には何らの権限も持たない。また、審判は他からの助言で判定を覆す必要はない。ただし、審判自身が間違いに気づいた場合は訂正すべきである。

Q3:松岡選手が打ったサイドラインぎりぎりのボールを、線審は「イン」の判定を下したが、伊達選手は「アウト」を主張し、松岡選手も自分のボールのアウトを認めたので、伊達選手は自分のポイントを要求した。
A3:事実問題に関して、審判の判定は最終であり、審判はプレイヤーの要求によって判定を覆してはならない。ただし、プレイヤーが、自らの不利益を理解して、相手の獲得ポイントとして認める場合、ポイントのコンシード(Concede)として、相手プレイヤーへのポイント譲渡が認められる。

Q4:松岡選手のボールへの審判の「アウト」の声が小さく、両校の選手はまだプレイを継続しているが？
A4:松岡選手の失点を再度大きな声でコールする。ポイントが決まった時は「ただちに」・「大きな声で」・「はっきりと」スコアをアナウンスする。

(3)順序

Q1:タイブレークのあと、次のセットのサーバーとコートがわからなくなった。
A1:長引いて、エンドチェンジが何回あっても、タイブレークは1ポイント目のサーバーの1ゲームと考える。松岡選手がタイブレーク最初のサービスを打った場合、タイブレーク終了後、次のセットのファーストゲームは、伊達選手のサービスとなる。この際、スコアは7－6なので、必ずエンドチェンジをする。そのエンドチェンジは、最終ポイントをプレイしたエンドから必ず交代するということである。

(4)妨害

Q1:松岡選手のファーストサービスがネットにかかり、サービスラインあたりに転がった。松岡選手は、そのボールを放置してセカンドサービスを打ち、ラリーが続いた。ネットに出ようとした松岡選手は転がっていたボールが邪魔になり、とっさにラケットでボールをのけたところ、そのボールはネットで止まらず、ネットの下を抜けて相手コートにまで転がってしまった。どうなるか？
A1:ネットにかかったファーストサービスのボールは、それ以降コート内の石ころと同じで、ボールにラリー中のボールが当たってイレギュラーしても返球しなければならない。邪魔になったボールをのけようとして、そのボールがネットに当たったとしても失点にはならない。しかし、相手コートまで転がった場合は、明らかに相手への妨害となり、失点する。

Q2:選手がついセルフジャッジの癖が出て、「アウト！」と言いながら軽く返球した。相手選手は不審そうな顔をしながらもラリーを止めてしまった。審判の判定は「イン」であった。この場合はどうなるか？
A2:「アウト」と言った瞬間に、相手選手への妨害行為(ヒンダランス)となり、「アウト」と言った選手の失点となる。

●打球時に大きな声を出す選手においては、まぎらわしく聞こえる場合がある。声が相手を妨害していると審判が認めた場合は、「レット」をコールしてプレイのやり直しを命じる。また、プレイの再開の前に、このプレイヤーに対して、「次に同じようなことをしたら、そのたびに『故意に相手を妨害した』として失点する。」ことを告げる。

Q3:ダブルスのレシーバーのパートナーがサーバーの気をそらそうとして妙な動きを見せるのだが、警告する必要があるか？
A3:明らかに妨害にあたると審判が判断した場合、「故意の相手への妨害」により失点となる。ただ、フォーメーションや、ポーチなどの「フェイク」の場合もあり、適用は難しい。戦略からあまりにはずれ、妨害行為としかみえないような場合、必ずコートレフェリーを呼ぶ。

雨天時の対応

① 雨による一時中断および試合再開の指示は、レフェリーが決定する。
② 一時中断および試合再開の決定は、放送やトランシーバーで、各コートに伝えられる。
③ 各コートへの連絡は、コートレフェリーが行う。

(1)「一時中断」が決まったら…

審判
① 試合の中断を選手に指示し、現在のゲームカウント・ポイント・エンドの確認を、選手立ち合いのもとに行う。
② スコアカードが濡れないように注意する。
③ メジャーとストップウォッチを審判セットに入れる。
④ 試合の使用球を、回収して缶に保管する。
⑤ スコアカード・審判セット・試合球を持って審判待機場所に戻り待機する。その際、審判セットの中身を確認し、再開時ウォームアップに使用するユーズドボールを追加しておく。

(2)「試合再開」が決まったら…

審判
① 審判セットの中身(スコアカード・試合で使用するボール・ウォームアップに使用するユーズドボールなど)を確認し、すみやかに担当コートへ向かう。
② ウォームアップは3分間で、ボールは準備しておいたユーズドボールを使用する。
③ 試合は、中断前に使用していたボールで行う。